（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成２９年度　学校自己評価システムシート（県立庄和高等学校）

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校

重点目標	
	１　課題解決力の育成と指導力向上 ２　行きたい進路への挑戦、進学実績の向上 ３　主体的で活力ある学校生活の推進 ４　保護者・地域・卒業生との連携協働した学校づくり

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	６名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	６名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月７日　現在）			実施日　平成３０年２月１４日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・AL の手法を活かした授業研究について継続するとともに、評価についての基準を明確化する（→総合的探究の時間）ことが必要である。 ・昨年度、家庭学習時間の伸長が見られた。特に学習スペース・大会議室活用の自主学習者の増加がみられる。	○授業方法の確立 ○学習時間の向上	①授業アンケートの活用、教科間を越えた授業公開・研修会を継続し、生徒の思考力・コミュニケーション能力の伸長を引き出す（探求型）授業を行う。 ②学習状況改善へ向けた ICT 環境の整理・整備を行う。 ③教科を中心とした計画的な学力向上・検定合格に向けた学習体制を確立する。	①ＡＬの手法を活かした授業の展開（探求型授業）ができたか。評価基準はできたか。 ②新しい学びの形を支えるための ICT 環境の整備は進んだか。 ③資格取得者数は昨年度に比して増加したか。	①小テスト→AL20～30→振返り（R80）という授業デザインの統一を図った授業改善の取組の中で講義型だけの授業はなくなった。評価の基準はまとめきれなかった。 ②ラーニングコモンズでは２講座 10 単位が展開されている。学習環境整備計画が継続して活動している。 ③学習時間の増加を目指して資格取得を奨励した結果、資格取得表彰の該当者が６名、英検９４名、漢検５７名、情報系検定８９名となった。学習時間は２時間程度の学習者が微増、全く勉強しない層が微減している。	A B	・本年度確立した授業のスタイル（小テスト→AL20～30→振返り）を継続して実施し、探求型授業の評価について研修を行う。 ・プリント等が準備されていれば勉強する意欲はあるというアンケート結果もある。学習時間の向上を目指して学習スペース（大会議室）・ヘルプデスクの活用方法と教材を再検討する。	・生徒はしっかりと授業に取組んでいる。 ・以前と比べるととても良い学校になった。学校周辺でも評判が良い。（評議員） ・発言時の生徒の声が小さいのが残念だ。（評議員） ・教員と生徒の間がフレンドリーで良い。（評議員） ・アクティブラーニングは使い方次第ではないか。引き続き研究を深めてほしい。（懇話会委員）
2	・昨年度策定した「新進路指導計画」の取組が行われている。 ・保護者の進路行事への参加数を増やすことによって、進路意識を共有することが可能である。 ・漠然と進学、就職という考えで 3 学年を迎える者も多い	○組織的進路指導の充実 ○進路意識の改善 ○個に応じた進路指導の充実	①特に「挑戦」という部分を意識して進路指導計画を運用する。 ②学年進路行事に保護者が参加しやすくする、HP・便りを用いて進路情報の対保護者への発信数を増加させる。 ③小規模校の特性を活かし、クラス担任レベルからの個に応じた、個々の進路希望に対応した進路指導を実施する。徹底した個別指導を行う。	①職業観を身に付け自分の将来について考えることができたか。 ②進路指導が充実していると考える保護者 80%。 ③進路決定率 95％以上、就職率 100%は維持できたか。第１志望合格 80%は達成されたか。	①新たな取組として「職業を知る座談会」「カタリバ（課題解決力向上チャレンジプラン）」を取入れたことにより意識の向上が予想される。進路意識の変容は来年度第１回進路希望調査で分析を行う。 ②保護者アンケートでは「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」が７１%。学年を追うごとに増加して３学年では７７%だった。 ③センター試験受験者を含む６名を除き進路は決定した。担任から学年進路指導部を含めた個別指導の成果が出ている。第１志望合格率は９０%を超える。	A B A	・「カタリバ・職業を知る座談会」を取入れた成果を２学年第１回の進路希望調査の際に分析し。行きたい、なりたい職業がどのくらい明確になっているか。自分の進路についての意識の深化（何をしていくのか）が見られたかを検討し内容等を工夫して両行事を実施する。 ・生徒・保護者ともに聴く進路研修会（仮称）の検討、実施。 ・生徒の様々な進路希望に対応するため担任レベルからの個に応じた指導を継続する。	・簡単には進学校にはならないが、授業改善に真剣に取り組む先生方が多く、「カタリバ」や「職業を知る座談会」のように進路行事にも工夫がみられる。是非ステップアップしていって欲しい。（評議員） ・生徒一人一人を丁寧にみてもらえている感じがする。（評議員） ・進路目標が見つかる学校になってほしい。（評議員）
3	・外国諸学校との相互交流事業を活性化・常態化できる。 ・チャイムレスウィークは定着し、生徒の自己管理能力の育成に寄与している。 ・後期生徒会の挨拶活動が回数・人数とも増加している。生徒会主体となる企画行事も行われた。	○自律による自己管理と挑戦する意欲の喚起 ○特別活動の充実	①台湾高級中学との相互交流を確立する。オーストラリアの高校との交流について春日部市と連携し、調査する。 ②生徒主体の企画活動について個々の状況に応じたアドバイスを与え、成功感覚を持たせる。	①台湾高級中学との相互交流事業は確立されたか。オーストラリアの高校との関係構築はできたか。 ②生徒が中心となり発案企画した取組について個々の状況に応じたアドバイスは行えたか。企画者は成功体験を得られたか。	①丹鳳高級中学との姉妹校協定調印は４月２０日に実施されることが決定。メリーボロー州立高校とも協定を結ぶ。丹鳳高級中学との交流会では本校生徒も英語や片言の中国語で積極的にコミュニケーションを取っていた。 ②生徒会企画の球技大会は好評のうちに終了した。１学年では生徒委員の企画立案した学年行事を実施（百人一首・ドッチボール）生徒に達成感を与えている。	A A	・国際交流の窓口として国際交流推進プロジェクト・教務部国際教育担当者（委員会）が中心となってグローバル教育を企画する。（担当は該当学年） ・活力ある学校生活のために引き続き生徒の企画・運営による学校行事・学年行事（スポーツ大会等）を支援して生徒に成功体験を感じさせ、挑戦する意欲を育む。	・台湾やオーストラリアの高校との交流は素晴らしい。そこから何かに挑戦できる生徒が育つと良い。（評議員） ・海外にはもう一度行ってみたい。（生徒間の）交流は現在も続いている。（生徒委員） ・（イベント実施時の規制を弱めてほしいという生徒委員の希望に対して）文化祭のイベントも自分たちで企画して、どう運営していくかも含めて先生たちを説得していくようなことができると素晴らしい。（評議員）
4	・授業公開への参加者数が低迷している。 ・地域貢献事業への参加要請は年々増加している。生徒会と特定の部活動だけではなく全校的な取組みとして再構成する必要がある。	○保護者、地域、卒業生との協働 ○学校情報の効果的発信	①ＰＴＡ・同窓会と学校公開・進路指導面で連携する。 ②地域行事等へのボランティア参加のすそ野を広げ学校を上げての地域貢献を行う。 ③保護者・中学生・中学生保護者が期待する情報の迅速な発信を行う。	①学校行事・保護者会等への参加者は昨年度に比して増加したか。 ②地域との交流、ボランティア協力への参加生徒数（部活動数）は増加したか。 ③学校説明会の中学生の参加数合計 900 名以上 ＨＰのアクセス数平均 700 件/日。	①５月の体育祭では昨年度来場者を超える参加者（約４００名）で盛況であった。授業公開については一斉メール等を活用したかまだ一桁と低調が続いている。１学年学年保護者会への参加者が６割と保護者の脚は学校に向き始めている。 ②庄和商工会と進路行事を通じて一層の深い結びつきを得ることができた。清掃活動を含む商工会行事に生徒が参加すると共に商工会から講師を派遣してもらい進路行事を実施した。 ③説明会等相談総数８０２名に増加、部活動体験１４７名ＨＰアクセスは６５０/日。	B B	・来年度も「職業を知る座談会」の講師をＰＴＡ・同窓会・庄和商工会に依頼し協働を維持・強化し、地域を助け助けられる関係を構築する。 ・４月下旬には年間を通じた募集活動の詳細を広報することで中学生・保護者の利便を図る。	・「職業を知る座談会」やボランティアで地域の方々とつながれるのは良いことだ。（評議員） ・１期生は庄和町の２つの中学校から２００名以上の入学生があった。それだけ地域に根付いた学校です。（評議員） ・外部の方から話を聞くということは活力や集中力を生む。そこからどう発展していくかが大事です。（評議員） ・「庄和ビジョン」は全方向で良い取組である。是非しっかりと進めていって欲しい。（評議員）